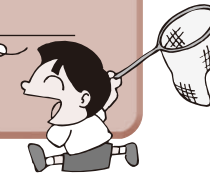


学びの 広場

地域で学び、活動する
皆さんを応援します
北秋田市教育委員会

- 公民館活動 ●生涯学習
- 文化振興 ●学校 ●スポーツ



小学生・高校生・大学生が鉱山文化で交流 ～阿仁鉱山（やま）交流会～

別子銅山をはじめ、各地の鉱山を研究している愛媛県立新居浜南高校ユネスコ部が、7月23日に阿仁地区を訪れ、阿仁合小学校の児童や秋田大学の学生たちと鉱山文化を通して交流を深めました。

秋田県文化財保護審議会阿仁支部長の戸嶋喬さんによる阿仁鉱山の歴史概要説明のあと、阿仁合小学校5・6年生のボランティアガイドが、高校生たちを阿仁鉱山ゆかりの寺院や施設等に案内しました。

また、交流会では、秋田大学北秋田分校長の濱田純氏をコーディネーターに迎え、新居浜南高校ユネ

スコ部、秋田大学海外鉱業研究会が研究発表とディスカッションを行い、考察を深めました。



▲阿仁合小学校の児童から案内を受ける高校生

市指定有形文化財「長岐邸」一般公開 ～所蔵品特別展示会～

市指定有形文化財「長岐邸」の一般公開と掛け軸や書画など所蔵品の特別展示会が、8月13日から15日までの3日間行われ、地域住民や帰省客など約160人が訪れました。

長岐邸の一般公開は、長岐邸を拠点に地域おこし活動を行っている「おさるべ元気くらぶ」（長岐直介代表）が5月の連休とお盆の年2回開催。今回は長岐家に伝わる所蔵品の中から清原雪信（狩野派）などの著名画家による名品の数々を初公開しました。

来場者は、同くらぶ会員の解説を聞きながら、格

式高い書院座敷に展示された名品の数々を鑑賞し、長岐家の歴史を感じ取っていました。



▲一般公開で長岐家の所蔵品を見学する来場者

遺跡の歴史的価値と魅力を発信 ～伊勢堂岱遺跡ジュニアボランティアガイド～

国指定史跡・伊勢堂岱遺跡を案内するジュニアボランティアガイドが、8月6日から21日までガイド活動を行い、来場者に遺跡の魅力をPRしました。

ジュニアボランティアガイドは、北秋田市の文化遺産である伊勢堂岱遺跡の歴史的価値をより多くの人に伝えるとともに、世界遺産登録への機運を高めるため、平成27年5月にスタートしました。

今年度の登録者は小学生から高校生までの24人で、3回の講義と模範ガイド演習のほか、鹿角市の大湯環状列石で現地研修を行い、本番に臨みました。ガ

イドは、遺跡と縄文館に分かれて案内し、来場者は遺跡の価値と多様な魅力を改めて実感していました。



▲縄文館で来場者を案内するジュニアガイドたち

阿仁公民館公開講座

■編み物講座

初めての方でも大丈夫です。仲間と会話しながら、作る楽しさを味わいましょう。

期日 9月6日(火)、9月29日(木)
10月13日(木)
時間 10時～15時
会場 阿仁公民館
講師 菊地洋子さん/定員 15人
持ち物 昼食、編み物道具
※材料費が必要となります。



『木精くえこお』

第59号作品募集

書く生涯学習誌『木精』の作品を募集しています。

体験談、エッセイ、伝聞、詩、小説、短歌、川柳などテーマは問いません。対象 北秋田市在住又は出身の方
原稿 手書きの場合は原稿用紙/パソコンの場合は「Word」A4/長編の場合は400字詰原稿用紙換算で30～40枚程度/作品にはタイトル、著者名(本名でなくても可)を付記してください。
締切 11月25日(金)
※「住所」「氏名」「連絡先電話番号」を添えてお申込みください。



伊勢堂岱遺跡ワーキンググループ メンバーを募集します

■編み物講座

伊勢堂岱遺跡ワーキンググループは、世界遺産登録候補の伊勢堂岱遺跡のボランティアガイドを中心とした活動を行っています。4月に伊勢堂岱縄文館がオープンして以来、全国から多くの見学者が訪れています。北秋田市の宝である伊勢堂岱遺跡を世界に発信しませんか。

対象 ボランティア活動ができる健康な方
内容 ガイドやその支援、遺跡の発信活動(ガイドマニュアルや研修があります)

秋田県家庭教育フォーラム

■家族を笑顔にするヒント

秋田県生涯学習センター学習情報班
018-865-1171

絆を深める子どもとの関わり方
日時 9月4日(日) 13時～16時30分
会場 秋田県生涯学習センター
講話 「今日の笑顔が明日への一歩」
講師 後藤節子さん
(秋田県児童会館館長)

座談会(話題提供者) 子育て支援サ
ポーター団体「CHERISH」/
あきたグッド・トイ委員会/パパス
サークル横手「ピーターパン」

ふるさとの文化財

「縄文時代編」

10

○勾玉・玉など (漆下遺跡出土)

今回は縄文時代の装身具「勾玉・玉」について紹介します。

写真左端のものは「勾玉」です。アルファベットの「c」の字形に削り磨いて形を整えた石に紐を通す穴が開けられたもので、写真ではちょうど数字の「9」を裏返しただよな形をしています(縦の長さ4・1cm)。縄文時代以降、弥生・古墳時代にも見られ、神話には神器として登場します。その形については、動物の牙から作った牙玉を起源とする説、胎児の姿をかたどったとする説や三日月の形を写したとする説などがあります。

このほか、縄文時代には球形の「玉」や大小さまざまな形の「玉類」があり、大きなものはペンダントのように、小さな玉類は組み合わせることでネックレスのように使用されたと考えられます。

材質は土製のものもありますが、石を加工して作ったものが多く、メノウ、水晶、滑石、ヒスイ製のものが多く見られます。

ヒスイは現在では「硬玉」といわれる宝石ですが、縄文時代も同様だったようです。北秋田市内では5か所の遺跡からヒスイ製の勾玉や玉類が見つかっています。写真では右端と左から2番目がヒスイ製の玉です。

このヒスイは、日本列島では新潟県糸魚川流域でしか採取することができず、この流域からムラとムラをつなぐ交易により北秋田の地にもたらされたと思われます。

また、ヒスイ製の玉は大量に出土せず、他県の遺跡の例では一定のお墓から偏って見つかることから、ある程度限られた身分の人が身に付けていたものではないかと推測されます。

9月10日(土)は伊勢堂岱縄文館で「第16回北秋田市縄文まつり」が開催されます。



▲勾玉・玉(漆下遺跡出土)

▽紹介者/北秋田市教育委員会生涯学習課文化係